

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01234

研究課題名(和文) 多文化都市におけるイベントに関する文化人類学的研究

研究課題名(英文) Cultural Anthropological Research on Events in a Multicultural City

研究代表者

渋谷 努 (SHIBUYA, Tsutomu)

中京大学・教養教育研究院・教授

研究者番号：30312523

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では豊田市における「ほみにおいでん祭り」、八尾市における「八尾国際交流野遊祭」、山形県鶴岡市における「ワールドバザール」に関する参与観察及びインタビューによる調査を行った。また、全国の国際交流協会に対してアンケート調査を行い、多文化に関わるイベントの実態について調査を行った。

それを通して、このようなイベントは外国にルーツを持つ人々にとって自文化を提示する機会になっていることが明らかになったとともに、多様な文化に触れる機会になるとともに、そこから国籍を超えた繋がりが形成したり、社会参加のきっかけにもなっていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、3F(ファッション、フード、フェスティバル)と呼ばれ、表面的な交流しか生まれず、多文化共生にとってプラスは少ないと考えられていた、多文化に関わるフェスティバルに注目した。多文化フェスティバルでは、文化が消費されるだけにとどまってしまうたり、その場限りの国際交流という側面があることを否定することはできない。

しかし各主催団体はそこにとどまらないで、国籍を越えた友人関係や支援活動につながるような「しかけ」を工夫しており、草の根からの多文化共生が生まれる機会となっていることを明らかにした。そこから、多文化フェスティバルを開催する社会的意義を強化したと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I conducted a survey of the “Homi-ni-Iden Festival” in Toyota City, the “Yauo International Exchange yayusai” in Yatsuo City, and the “World Bazaar” in Tsuruoka City, Yamagata Prefecture, through participant observation and interviews. I also conducted a questionnaire survey of international associations throughout Japan to clarify the actual status of events related to multiculturalism.

Through the survey, it became clear that such events provide an opportunity for people with foreign roots to present their cultures, as well as an opportunity to come into contact with diverse cultures and form connections that transcend nationalities, and also provide an opportunity for social participation.

研究分野：文化人類学

キーワード：フェスティバル 多文化 国際交流 多文化共生

1. 研究開始当初の背景

多文化共生や多文化主義など外国籍住民の問題を扱っている文脈の中で、フェスティバルやイベントは否定的な受け取られ方をされることが多かった。日本の多文化共生では、多文化が3F「衣 fashion」「食 food」「祭 festival」に還元されがちであると度々指摘されている。このような3Fを積極的に打ち出すイベントを多文化共生の啓発事業と位置付けるなら、幅広い層の日本人の理解を深める上で、ある一定の役割を果たしてきたと評価を受けることもあるが、これらの華やかな側面に光が当たるなか、構造的差別や偏見等が影となり覆い隠されて、さらにそれらの文化が単なる消費の対象とされ、政治的に利用されることもであると批判されている。それに対して本研究で取り上げるような、宗教的な意味合いがない、または非常に薄いフェスティバル(まつり)は、社会凝集力や町おこしのエージェントとして再評価されている。フェスティバル(まつり)は、欧米社会などではインナーシティに多文化の色合い、文化的多様性を内包する場合があると指摘されている(Frost 2016:569)。イベントやフェスティバルを学際的に研究しているゲッツはイベント研究の核となる現象は、イベント経験とイベントに付与された意味であると論じている。人々は個々の目的のためにフェスティバルを創出し、フェスティバルの経験は参加者ばかりではなく主催者、運営者側にも意味を与えている(Getz 2010:19)。

2. 研究の目的

本研究では、日本国内で外国籍住民が集住している地域でのフェスティバルを3例取り上げ、イベントを開催することを希望するようになった地域の日本人住民や外国籍住民の歴史的背景に注目しながら、多文化共生や民族性を強調することがない祭り・イベントが可能になった要因、さらに主催者側や参加者に対してどのような経験が可能となり、意味付けられているのかについて明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、日本国内で町内会や商店街規模で行っている、外国籍住人を積極的に加えているフェスティバルを調査対象地として取り上げた。一つは申請者がこれまで運営や実施に関わってきた愛知県豊田市内にある、ブラジル人集住地域である保見団地で行われている「ほみにおいでん」である。さらに山形県鶴岡市、出羽庄内国際村で行われているワールドバザール、大阪府八尾市の八尾国際交流野遊祭を取り上げた。また、日本における多文化フェスティバルの動向を明らかにするために、国際交流協会などを中心に119団体を対象にアンケート調査を行い、回答は51件だった。

4. 研究成果

「多文化共生のまちづくりとイベント・祭りのミクロコスモス」(2020,2022)では、「ほみにおいでん」では、それまで保見地区で行われていた地域のイベントでは、参加しにくかったブラジル人にとって新しい形のイベントを作り社会参加の機会を与えることになっていることを指摘した。そして自治会が主催の祭りとは異なり、団地とより広い地域社会との接点となっており、団地住民日本人、団地住民外国人(主にブラジル人)、周辺住民(元々の住民)、豊田市市民(連として参加)、行政とが接する機会となっていた。「外国人集住地域における「フェスティバル」から見える日本人住民とブラジル人住民の「つながり」の醸成」(2021)では、「国際フェスタ」や「ほみにおいでん」のようなフェスティバルが可能になったのはブラジル人住民と日本人住民との間での協働が成立し、場所や機材の賃貸や保健所の許可、さらにブラジル人住民を始めたその他の外国人を集めることは難しい点を指摘した。

「多文化に関わるフェスティバルの現状と課題-アンケート調査の結果をもとに-」(2022)ではアンケート結果をもとに、それぞれの団体が、経済的にも社会的にもさまざまな制約の中で多文化フェスティバルを開催しているが、重要となるのは、市民たちに参加してもらう工夫であることを指摘した。観客としてきてもらうようにステージでの出演者や屋台の出店を確保する努力は重要である。

「ともに暮らす」(2021)では、「八尾国際交流野遊祭」と「ほみにおいでん」を取り上げて、多文化フェスティバルは多様な文化的ルーツを持つ人が他の文化を学んで実践する機会である点を指摘した。すなわち学び合いにより自他の境界は曖昧になり、文化の実践の相互乗り入れをし、その成果を披露する機会であることを指摘した。

「国際交流から多文化共生へ：山形県鶴岡市における多文化フェスティバルの変容と機能」(2024)では、1980年代からの地域での国際交流活動から多文化共生への推移を、フェスティバルを中心に明らかにした。特にワールドバザールの参加者がより深い外国籍住民との関係が形成されるきっかけになっていることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 渋谷努	4. 巻 42
2. 論文標題 多文化に関わるフェスティバルの現状と課題 アンケート調査の結果をもとに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会科学研究	6. 最初と最後の頁 185-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渋谷努	4. 巻 41-2
2. 論文標題 外国人集住地域における「フェスティバル」から見える日本人住民とブラジル人住民の「つながり」の醸成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会科学研究	6. 最初と最後の頁 153-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渋谷努	4. 巻 44-1
2. 論文標題 国際交流から多文化共生へ：山形県鶴岡市における多文化フェスティバルの変容と機能	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 社会科学研究	6. 最初と最後の頁 179-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 渋谷努
2. 発表標題 外国人集住地域における「祭り」から見える境界の変容
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渋谷努
2. 発表標題 移民集住地域におけるフェスティバル経験の多様性
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Nobuhiko Nibe, Mari Nakamura, Hiroshi Yamaguchi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 240
3. 書名 Toyota city in Transition	

1. 著者名 宮岡真央子 渋谷努 中村八重 金城糸絵編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 266
3. 書名 日本で学ぶ文化人類学	

1. 著者名 丹辺 宣彦・中村麻里・山口 博史編、渋谷努	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 296
3. 書名 変貌する豊田（第10章 多文化共生のまちづくりとイベント・祭りのマイクロコスモス）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------